30年の歳月を超え集った懐かしい顔
タイムカプセルがつないだ絆

タイムカプセル掘り出しに関わった皆さん。（左から）蛯原智司さん（当時６年）、蛯原真一さん（当時５年）、大久保剛さん（当時５年）、杉山秀晃さん（当時６年）、坂琢弥さん（当時３年）、筑間章さん（当時４年）

東小学校の昇降口脇に30年前に埋められたタイムカプセル。同小の30周年記念事業の一環として行われ、当時の児童全員、先生、PTAの皆さんが、思い出の品などをタイムカプセルに入れ、30年後に開封しようと、埋設したものです。このタイムカプセルの開封式が8月11日、東小学校体育館で開催されました。

式を主催したのは、タイムカプセルを埋めた30年前、在校生だった有志の皆さん。当時6年生で児童会長だった蛯原智司さんが中心となり結成された「東小タイムカプセル開封プロジェクト実行委員会」の皆さんです。

同級生同士、息の合った連携で掘り出し作業を行う伊奈工業の蛯原さん（奥）と大久保さん（手前）。

タイムカプセルをきっかけに再び集った卒業生たち

「実は誰も覚えていなかったんです（笑）。なので、まさか今年だとは思わなくて」。蛯原さんは、プロジェクトが動き出した半年前のことをこう振り返ります。埋設した当時も親からは「30年後にお前たちが掘り出すんだよ、とは言われなかった」と笑います。

「埋めたことはなんとなく思い出したんですけど、カプセルの大きさや材質、穴の深さとか、同級生や当時の先生に聞いても誰も覚えていなくて」。実行委員会メンバーで、まずは掘り出してみよう、ということになったそうです。

まだ肌寒さの残る3月30日、実行委員のメンバーによる掘り出し作業が行われました。深さや大きさなどがわからなかったため、作業には重機も登場。重機を提供した伊奈工業㈱の大久保剛さんも東小の卒業生で、当時は5年生でした。タイムカプセル掘り出しの話を聞いて「快く引き受けた」と話します。

掘り始めてから2時間ほどで、深さ約1㍍の穴の底から白いスーツケースのようなタイムカプセルが現れました。蛯原さんは「無事に埋まっていて安心しましたね。自分たちの親がきちんとやってくれていたんだなって」と安堵の表情を浮かべました。

月に１回集まり、開封式当日に向けた企画を練る実行委員の皆さん

懐かしい笑顔があふれたタイムカプセル開封式

真夏の青空が広がった8月11日。東小学校の体育館でタイムカプセルの開封式が行われました。当日は、多くの卒業生が集まり、懐かしい顔を見つけては、お互いの近況を報告しあうなど、たくさんの笑顔の輪ができていました。

式典では、招待された恩師の先生方からあいさつがあり、タイムカプセル埋設当時を知る方へのインタビューや、掘り起こし作業の様子などを収めた動画も上映されました。

直井敏明さん・蓮くん

伊丹理恵さん・幸樹くん

タイムカプセル開封後は、各学年ごとに恩師の先生から直接、思い出の品が手渡されました。当時1年生だった直井敏明さんは、息子の蓮くん（東小6年）と一緒に参加。「（タイムカプセルのことは）うっすら記憶にありました。絵と将来の夢を書いた作文が入っていたけど、全く違う仕事に就いています」と笑っていました。当時2年生だった伊丹理恵さんは、息子の幸樹くん（東小1年）を連れて参加。「うちは親子3代で東小なので、たくさんの思い出があります。懐かしい友人にも会えてうれしかったです」と感慨深げに話してくれました。

「30年越しの宿題を、やっと提出できました」

半年にわたる準備を経て、無事に開封式を終えた実行委員の皆さんの表情は晴れ晴れとしていました。蛯原さんは「本音を言えば、（参加した皆さんを）泣かせたかった（笑）。でもみんなの笑顔を見ていたら、半年間準備した甲斐がありました。30年越しの宿題をようやく提出できた気分です」と笑顔で語りました。

▲タイムカプセル開封の瞬間

（写真）恩師から思い出の品を手渡され、笑顔を見せる卒業生の皆さん。記念撮影や旧友との思い出話に花を咲かせ、まるで子ども時代にかえったかのように喜びを分かち合っていました。30年という月日が流れ、親になった人も多く、子どもと一緒に参加する姿も見られました。